



第37回日本診療放射線技師学術大会
第23回アジア・オーストラレーシア学術交流大会 (23rd AACRT)
第28回東アジア学術交流大会 (28th EACRT)

第1回

東京への道 Go To TOKYO

大会長 篠原 健一

(公益社団法人東京都診療放射線技師会 会長)



学術大会開催のお知らせ

第37回日本診療放射線技師学術大会および第23回アジア・オーストラレーシア学術交流大会 (23rd Asia-Australasia Conference of Radiological Technologists: AACRT)、第28回東アジア学術交流大会 (28th East Asia Conference of Radiological Technologists: EACRT) を、2021年11月12日(金)から14日(日)までの3日間、東京ビッグサイトで開催致します。

AACRTについては、2015年の第20回AACRT(シンガポール)において、本来は2019年の第22回AACRT招致に日本診療放射線技師会として立候補しました。しかし、オーストラリアと競合することになり、16の国と地域各1票による投票の結果は8対8でした。当時の議長(ISRRT委員=タイ)提案により、特例として第23回開催地も決めることが採択され、抽選の結果、2019年がオーストラリア、2021年が日本となりました。2013年のIOC総会(ブエノスアイレス)で東京五輪・パラリンピック2020が決まっており、その前後ということであれば、後の方で良かったと思っていたところ、コロナ禍による延期でくしくも(今のところ)同年開催となりました。

本大会は、日本診療放射線技師会のスローガン「国民と共にチーム医療を推進しよう」を旗印に、サブタイトルとして「技術の多様性と人の調和」を掲げ、準備を進めています。

現段階では、延期された東京五輪・パラリンピックは開催の方針、国の政策としてGo To キャンペーンや海外からの受け入れ態勢などを見据え、一部対面参加型、一部オンライン(ライブ配信+オンデマンド方式)でのハイブリッド開催とする計画でいます。

経験のない方式や、先の見えない感染症対応、状況の変化などの要素による紆余曲折が予想されますが、可能な限り、従来の学会発表や各種講演・セミナーを開催し、その上で今後の社会に向けた新たな方法や可能性を探っていききたいと思います。

会員の皆さまには、さまざまな点でご不便をお掛けするかもしれませんが、われわれと共に新たな未来に向けて歩きたいと思いませんか。

昨年の6月に、東京で関東甲信越診療放射線技師学術大会を開催しました。その時のテーマは「つながる医療 つなげる“和” ~One for all, All for one~」でした。日本の心につながる“和”、江戸から東京につながっているさまざまなもの、場所や文化にも大いに興味を持っていただければと思っています。



2021年のAACRTを日本で開催することが決定した会議の様子(2015年)



2019年のAdelaide(オーストラリア)大会の閉会式で、次期開催国のあいさつをする中澤前会長

